

香川県におけるキジハタの産卵期

【はじめに】香川県で「アコウ」と呼ばれているキジハタは初夏から夏に多く漁獲されます（写真1）。近年、香川県では全長約5cmの稚魚約12万尾を毎年放流しており、漁獲量が増加しています。本種は青森以南から東アジアの沿岸域に生息し、全長50cm程度に成長するハタ科魚類です。また、本種は雌から雄へと性転換する魚種であり、産卵期推定や性別判断には、生殖腺の組織学的観察が必要とされます。今回は天然海域のキジハタの産卵期を明らかにしたので紹介します（山本・小林 2017）。



写真1 キジハタ（アコウ）

【方法】6～8月と11月に香川県西部の伊吹島周辺で漁獲された全長176～446mmのキジハタ52尾を検体としました。生殖腺の一部をブアン液で固定し、常法に従って横断組織切片を作製し、ヘトマトキシリン/エオシン染色を施し、光学顕微鏡で切片を観察しました。性別判断は田中ら（1990）に基づき、雌（卵母細胞のみ観察）、雄（精母細胞の包囊のみ観察）、間性（卵巣細胞と精巣細胞がモザイク状に観察）に分けました。また、雌雄の発達段階は、生殖腺内の最も発達した生殖細胞に基づき判断しました。産卵期を推定するための成熟の基準については、雌は卵巣内に第2,3次卵黄球期および核移動期の卵母細胞が存在していること（写真2）、雄は精小嚢内腔および輸精管が排精された精子で満たされていること（写真3）としました。

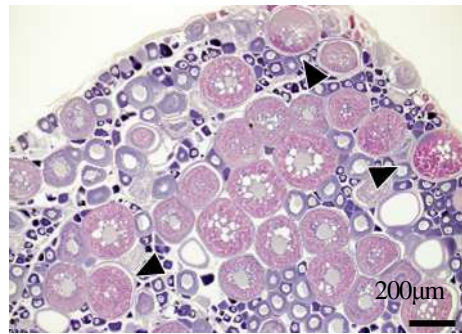


写真2 成熟雌。矢印は核移動期の卵母細胞を示す。

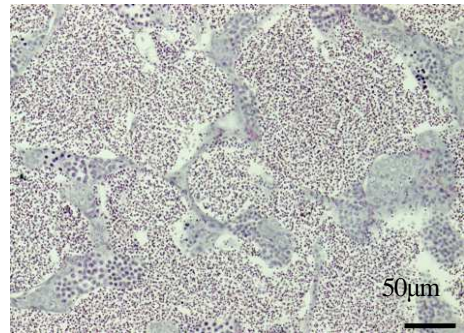


写真3 成熟雄。

【結果】性別をみると、雄が13尾、雌が38尾、間性が1尾で、間性個体は6月に出現しました。雌雄共に11月には成熟個体はいませんでした。この組織切片の観察結果や種苗生産の採卵時期、仔魚の出現時期（香川県 1990）から、産卵期は6～8月と推定されました。

【参考文献】

- 香川県（1998）平成9年地域特産種量産放流技術開発事業 魚類・甲殻類グループ 総合報告書, 1-57.
田中秀樹・広瀬慶二・野上欣也・服部圭太・石橋矩久（1990）キジハタの性成熟と性転換. 養殖研報 17, 1-15.
山本昌幸・小林靖尚（2017）瀬戸内海中央部におけるキジハタの産卵期と肉眼的観察による性別判断の信頼性. 水産増殖 65, 165-169.

（文責 主席研究員 山本昌幸）